

16 鍼治療効果の研究

—リンパ球機能への質的影響—

○山口宣夫¹⁾、坂井潤太¹⁾、李愛麗³⁾、
松井健一郎¹⁾、荒井松男²⁾、高田外司²⁾、鈴木信孝⁴⁾、
多留淳文²⁾ 金沢医大・血清学¹⁾、金沢・多留内
科クリニック・鍼灸若草塾²⁾、石川天然薬効物質研
究センター³⁾、金沢大学・医・産婦人科⁴⁾

【目的】 鍼治療の刺激が、生体に及ぼす影響について白血球とその亜群の量的・質的な評価を試みた。鍼治療を施した後、白血球の総数、顆粒球、リンパ球そしてリンパ球亜群等の量的な変動の他、質的変動について経時的に追跡したので報告する。

【方法】 対象は鍼治療を施行した正常成人(21才～56才)25名であり、1日後、2日後、7日後14日、21日そして28日後に末梢血を採取した。測定項目としてサイトカイン保持細胞の中から、大食細胞の機能因子としてIL-1 β 、体液性免疫の機能因子としてIL-4 それに細胞性免疫の機能因子としてIFN- γ 陽性細胞数をFACSscan法を駆使して調べ質的变化とした。又、鍼治療は前報と同様とした。

【結果】 サイトカイン陽性細胞への影響として、鍼治療はIFN- γ 保持細胞に対して、顕著な増加的作用を示した。この増加的影響は鍼治療1日後から確認され、7日後においても維持されていて、1ヶ月後に収束した。その他、IL-4及びIL-1 β 産生細胞にも増加的な傾向を示した。

【考察及び結語】 正常成人への鍼治療効果を判定するため、白血球総数、その亜群である顆粒球、リンパ球そして単球別変動を調査した。この報告では免疫機能への影響として、サイトカイン保持細胞を生体外に調整した後最も短時間で測定できるFACS法で測定した。その結果、鍼治療1日後よりIFN- γ 保持細胞数の著明な増加が認められた。前報においてT細胞系とNK細胞数の量的増加と併せて考えると鍼治療は細胞性免疫とNK細胞の活性を高める作用が示された。